

「よむこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名 第1学年「うみのかくれんぼ」

② 単元のねらい

文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、言葉を動作化する活動を通して、場所・体の特徴・隠れ方の順で書かれていることに気づき、3つの海の生き物について読み取ることができる。

③ 指導の工夫

①生き物と場所の写真 ②生き物の特徴が分かる写真 ③隠れ方の様子が分かる写真という3枚の写真が使われており、文章に合わせて事柄の順序に沿って並んでいる。写真と文章を照らし合わせながら、具体的にイメージができるように、動作化を入れることで、言葉の理解を深め、力がつく言語活動につなげたい。

④ 活用したツール

教科書 QR コンテンツ

授業の最後に教科書に載っている動画を見て、確認する。

⑤ 実践内容

研究の視点	学習活動	指導・援助及び評価
つかむ	1 前時学習した内容のペア音読・「まねっこタイム」(ペアの一人が音読、もう一人が動作化)をして振り返るとともに、本時学習する生き物がもくずしよいであることを確認する。	・動作化を入れることで、言葉の理解を深め、力がつく言語活動に繋げる。
	2 課題確認をする。 もくずしよいの かくれかたの ひみつを よみとろう。	①音読や動作化の様子から、本時の内容をどのように解釈しているか確認し、実態を見届ける。
深める	3 「もくずしよい」の部分の音読をする。	
	4 本文の内容に合わせて、質問形式で交流する。(全体)	・言葉だけでなく具体的な動作や、説明を加えながら正しい言葉理解につなげる。
	①「なに」が、「どこ」にかくれていますか。 →「かにのなかまのもくずしよいが、いわのちかくにかくれています。」	
	②どんな「からだ」をしていますか。 →「はさみで、かいそうなどを小さくすることができます。」	
まとめる	5 もくずしよいの隠れ方を文章でプリントに書く。(個人追究)	・プロジェクターに文章を映し出し、書き抜きをするときにマーカーを引いて視覚的に分かりやすくしておく。
	6 3つのいきものを比べて考える。 -はまぐりやたこ隠れ方がどうちがうのか。 →姿を隠したり、色を変えたりするのはなくて、かいそうなどをからだにつけて、かいそうになったふりをする。	②プリントに書いている内容を確認し、学習状況を見届ける。
	7 クイズ形式で問題を出し合う。(ペア)	・「へんしん」という言葉について正しく理解できるように、深めの発問をする。子どもの発言を引き出しながら授業を進め、理解を全員が深められるように声をかける。
	8 本時のまとめをする。	・動作化をしながらまとめを行い、3つの視点に絞って言葉を引き出す発問を精選する。
	まとめ もくずしよいは、いわのちかくで、はさみでかいそうなどを小さくして、からだにつけてへんしんする。	評価規準 【思C】 場所、体の特徴、隠れ方の順で、もくずしよいについて読み取っている。(動作・発言・プリント)

「もくずしよい」の隠れ方を追究していくときに、写真や自分の言葉で伝える子供が多かった。最終的には、教科書の文章にたち戻って伝えるように、声をかける支援が1年生には必要だと感じた。



スクイメニューを使って書き込むことも考えたが、まだ学習段階で使用することが難しく、検討を止直した。



実際に、「海藻を体につけて、海藻に変身する。」というのはどういうことなのかを実物を見て実感した。「へんしん」という言葉を深く考えることができた。



⑤ 成果と課題 (実践するときの留意点など)

○1年生では動作化で実物を使うことで、より言葉を理解し、言語能力の蓄積にもつながると感じた。

△低学年でも、ICT を使って言語能力を伸ばす方法がないか、考えていきたい。